

IV 国際交流

国際交流

中村 哲、岩本由美、大塚 文、佐々木秀美

本年度は昨年度から急速に拡大しパンデミックとなった COVID-19 により、国外との往来が極めて困難となった。そのため、本学部委員会の活動は、ドイツカトリック大学 (KatHO-NRW) との間の交流の継続と世界災害看護学会での理事会遠隔参加の2点に留まった。

1. KatHO-NRW との交流:

同大とは前述の理由から11月に予定されていた第5回に相当する教育交流会の実施を取りやめた。しかし、昨年9月19日-21日に KatHO-NRW が企画し、ドイツ共和国ケルンで開催された国際研究集会「Social Globalization and Education, Social Work, Health Sciences, and Practical Theology Perspectives on Change」に本学部国際交流委員2名および大学院関係教員2名が参加し、以下の2つの演題を発表した。この集会は同大学の20カ国の交流提携校から約160名が参加した国際学会というべきものであった。KatHO-NRW によると、本学関係の発表を含めた成果が同集会編集委員会の手で本年中に編纂され、書籍として来年出版される予定である。

- 1) Y. Okamoto, Y. Kato, H. Sasaki, and Y. Iwamoto: A study on support to autistic children with highly artistic skills and their parents through art exhibition programmes-support programme triggered by an encounter with child x. International Conference on Social Globalization and Education, Social Work, Health Sciences, and Practical Theology Perspectives on Change. KatHO-NRW, Cologne, Germany, September 19-21, 2019.
- 2) H. Sasaki, Y. Iwamoto, Y. Okamoto, S. Kato, K. Okada, and Y. Kato: Contribution to community welfare is based on collaboration between nursing, welfare and education: starting with the deaconess training in Germany. International Conference on Social Globalization and Education, Social Work, Health Sciences, and Practical Theology Perspectives on Change. KatHO-NRW, Cologne, Germany, September 19-21, 2019.

2. 第6回世界災害学理事会への参加:

広島文化学園大学は2008年に発足した世界災害看護学会(WSDN: World Society of Disaster Nursing)の理事校の1つとなっており、同学会が主催する学会および理事会へこれまで積極的に関与してきた。本年は2年ごとの国際学会開催年に当たり、第6回の学会が韓国ソウルで5月に開催される予定であった。しかし、COVID-19のパンデミックに鑑み、半年遅れて11月11日にZoomによるWebinar開催となった(図1)。このため、学会の理事担当大学として学会理事会会議へ理事で学部国際交流委員である佐々木と岩本が日本現地から遠隔で参加した。会議では次回2022年の担当大学・慈済大学と開催地・台湾および2024年の担当大学・Johns Hopkins 大学 と開催地・Baltimore を承認した。



(図1) 6thWSDN 学術集会オープニングテーマ「COVID-19 最前線での看護師達」での発表と討論の様子.